

聖書 イザヤ書 46：3～4／マタイによる福音書 18：10～14
説教 『あなたがたはどう思うか』 寺島 昭二 牧師

みなさんは「聖書」という書物をどんな書物であると考えていますか。古来、聖書は文学書であり、歴史書であり、道徳書であり、あるいは信仰の書であると言われて来ました。世界のベストセラーでもあります。文学書として聖書を愛読する人もいるでしょうし、道徳書として愛読する人もいます。しかし、私たちは信仰者として「聖書」を信仰の書として理解し、読んでいます。教会では主日ごとに聖書が読まれ、その言葉について解き明かし（説教、宣教）がなされ、私たちは日常生活の中でその言葉によって励まされ、慰められ、勇気づけられ、希望を新たにしているわけです。

私は昨年3月末をもって隠退いたしました。47年の伝道・牧会生活でした。行く先々の教会で多くの人々との出会いがあり、貴重な経験がありました。それぞれの地での貴重な経験は今も私の人生のベースになっています。聖書も、教会も、キリスト教信仰も実は私の生家には無縁なものでした。初めて教会という場所に連れて行かれたのは中学一年生の時、小さな教会は元「信濃村伝道所」といって、日曜日ごとに宣教師が来られての礼拝でした。翌年、若い牧師が神学校を卒業して赴任されましたが、農村教会の宿命でしょうか。農閑期には午前中の礼拝、農繁期に礼拝は夜に代わるのです。短期間でしたが、この教会での経験は深いものがありました。一つのこと、決められたことに拘らない、絶対視しない、ということ、つまり自由ということです。

今日はマタイ福音書 18 章 10 節－14 節についてお話します。小さな存在、小さな者の一人に深い思いを寄せてくださる神さま、「小さい者の一人が減びること、それは天にいますわたしたちの父の御心ではない」、2000 年前に語られた、何という言葉であったかと思えます。イエスという方はそういうことを大胆に人々に語り、そして社会的な犯罪者の一人として十字架の死を背負われたのです。イエスの十字架に掲げられた罪状書には「ユダヤ人の王イエス」とありました（マタイ 27：37）。迷い出た一匹の羊と迷い出ることのなかった九十九匹の羊。あなたならどうする？というイエスの問いかけです。一匹と九十九匹、どちらが重いか。同じような問題は私たちの周囲にも見られます。どうしても数の多さに心奪われます。少数者はいつも社会の隅に追いやられ、無視され、否定されます。時代への果敢なチャレンジ、あなたは何処に立つか、「私」の立ち位置を問われます

イザヤ書 46：3、4 の言葉も一緒に聞きました。「よく聞け。生まれ出た時から、母の胎を出た時からわたしに背負われ、持ち運ばれたものよ。わたしはあなたがたの年老いる日まで、白髪となるまで、あなた方を持ち運んで行こう。あなたを造ったのはわたしだ。だからわたしはあなたを背負い、持ち運び、そして必ず救う」、そう言ってくださる方がいる。一つとして無駄な命、無用な命はない、一つ一つの命にわたしは責任を負う。そう言われるのです。季節の移ろいの中で時に、静かに、預言者の言葉に耳傾けてみていただきたい、そう思います。（寺島昭二）